

『これからの日本の医療制度を考える集い —混合診療解禁で、どうなる日本の医療—』

混合診療解禁の影響について議論



11月13日(土)、京都会館において「これからの日本の医療制度を考える集い - 混合診療解禁で、どうなる日本の医療」が京都府医療推進協議会、京都新聞社の主催で開催され、府民800人の参加を得た。

当日は、油谷府医会長による開会挨拶のあと、第1部「笑い与健康」と題して落語家の桂南光氏が講演、第2部「混合診療解禁で、どうなる日本の医療」では立入府医副会長が混合診療解禁の影響について解説し、その後、パネルディスカッションが行われ、盛会裡に閉会した。

第2部パネルディスカッションでは、パネリストとして、荒綱清和氏（呆け老人をかかえる家族の会京都府支部代表）、川端真一氏（京都新聞滋賀本社編集委員）、上原春男氏（京都府医師会副会長）が登壇し、混合診療解禁の問題点として 患者負担 保険外の治療・新薬等の有効性や安全性 健康保険などいわゆる公的保険の範囲の縮小 - の3つに焦点を絞り、それぞれの立場から活発な意見交換が行われた。またパネルディスカッションでは、日医が制作したビデオ「もしも、『混合診療』が解禁になったら…」も放映された。

今回の集いの締めくくりにあたって、森府医副会長が 人の命は平等です。いつでも、だれもが安心して受けられる医療制度を守っていきましょう 健康寿命世界一に貢献している国民皆保険制度をより一層充実させましょう 「命の沙汰も金次第」「保険診療縮小」となる混合診療の解禁に反対しましょう - の3点を各方面にアピールしていきたいと提案したところ、会場全体から大きな拍手で賛意が示された。



当日のパネルディスカッションの内容は、近日中に京都新聞紙上（11月30日朝刊の予定）に掲載されます。また、当日の状況をビデオ収録いたしておりますので、貸し出しをご希望の方は府医事務局保険医療課（電話＜ダイヤルイン＞：075 - 315 - 5275）までお申し込みください。京都市内各地区と乙訓地区以外の各地区には地区医師会長あて送付させていただきます。

これからの日本の医療制度を考える集い～とりまとめ～

1. 人の命は平等です。いつでも、だれもが安心して受けられる医療制度を守っていきましょう。
2. 健康寿命世界一に貢献している国民皆保険制度をより一層充実させましょう。
3. 「命の沙汰も金次第」「保険診療縮小」となる混合診療の解禁に反対しましょう。